

第1回 久留米市まち・ひと・しごと創生会議

1. 開催日時

平成27年6月25日（木）13時30分～15時00分

2. 会場

久留米市民会館 第一会議室

3. 出席者

座長：榑原利則市長

副座長：橋本政孝副市長、深井敦夫副市長

委員：14名（代理含む）

本村康人委員、緒方義範委員、佐藤清一郎委員、田代信行代理、農塚博俊委員、
内田幸子委員、佐藤有里子委員、有馬彰博代理、甲斐能枝委員、鹿田哲委員、
古賀忠委員、吉田輝彰委員、吉岡マサヨ委員、宮崎宏子委員、

4. 欠席者

坂井猛委員

永田見生委員（代理出席：有馬彰博）

権藤尚彦委員（代理出席：田代信行）

【議事次第】

1. 開会

2. 事務局説明

・開催要綱説明

・検討体制、これまでの検討状況の説明（国、久留米市）

3. 意見交換

4. その他

1. 開会

■事務局（甲斐田総合政策課長）

皆さま、こんにちは。開会の前でございますけれども、一点、皆さまに事前にご了承いただきたい点がございまして、ご連絡をさせていただきます。この会議のテーマであります地方創生につきましては、市民の皆さまの関心も非常に高いテーマでございますので、この会議につきましては原則公開とさせていただきたいと思っております、傍聴も自由とさせていただきたいと思っております。

あわせて、議事の要旨につきましても、発言者を明記させていただきまして、ホームページ等で公表もさせていただきたいと思っております。あわせて、写真撮影につきましても、ご了承をいただければと思っておりますので、よろしく願いいたします。（一同了承）

■事務局（國武総合政策部長）

それでは定刻前ではございますが、委員の皆さまお揃いでございますので、ただいまより第1回久留米市まち・ひと・しごと創生会議を開会いたします。

本日はご多忙の中、ご参集いただきまして誠にありがとうございます。私は本会議の事務局を務めます、久留米市総合政策部の國武と申します。どうぞよろしく願いいたします。開会にあたりまして、榑原市長よりご挨拶申し上げます。

○榑原利則市長

皆さまこんにちは。久留米市長の榑原でございます。本日は、大変お忙しい中、ご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。久留米市まち・ひと・しごと創生会議の開催にあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。

皆さまご承知のように、わが国では、人口問題が国家的な課題となっております。昨年末には、「まち・ひと・しごと創生法」が施行され、各自治体におきましても、地方版のまち・ひと・しごと創生総合戦略の策定が求められることとなりました。

そうした中で、久留米市におきましては、人口問題をこれから先のまちづくりの最も重要な課題として捉えておりまして、今年の4月から新たにスタートいたしました「久留米市新総合計画第3次基本計画」の策定の中では、そのことを意識してさまざまなことに取り組んできたところでございます。その様な経過もございまして、今年の2月に、いち早く、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の暫定版を策定したところでございます。

そこで、私どもといたしましては、今後は、この暫定版をもとに、本日お集まりの委員の皆さま方、そして多くの方々のお力添えをいただきながら、久留米市らしい魅力ある施策を加えまして、確定版として作り上げたいと考えております。

その「総合戦略」の検討にあたりまして、久留米市の現状について、まず2点ほどご紹介させていただきたいと思っております。

一点目は、久留米市の人口動向についてでございます。

久留米市の人口は、平成15年度をピークに年々減少を続けておりましたが、平成25年度に人口増加に転じているところでございまして、平成26年度におきましても、2年連続の増加となりました。

この人口増加の要因でございますが、市外からの転入超過によるものでございまして、生まれる方と亡くなられる方の差であります自然動態は、これはすでに久留米市でも、マイナスに転じているところでございます。今後、自然動態の減少というのは避けられない状況だとみておりますので、一定の人口規模を久留米市が維持していくためには、転入者を増やし、転出者を抑制していく、このような取り組みが不可欠であると考えているところでございます。

それからもう一点は、久留米市の発展に弾みを付けるべく、2つ大きなプロジェクトに取り組んでいるところでございます。その一つ目でございますが、既にご承知のとおり、来年4月に久留米シティプラザがいよいよオープンいたします。文化芸術の振興、そして広域的な交流の促進、さらに賑わいの創出、この様なことでの取り組みを進めているところでございます。

それから二つ目でございますが、スポーツを振興し、そして広域求心力の拡大をスポーツの面からも更に広げていこうということで、久留米スポーツセンター体育館・武道館・弓道場の一体的な再整備について、平成30年春のオープンを目指し、福岡県と連携して取り掛かっているところでございます。現在あります総合スポーツセンターの体育館等の施設は、今年の11月から取り壊しを行う予定としているところでございます。

このような環境のもと、久留米市は、今まさに、これから先の市勢発展へ向けた大きな転換期に差し掛かっていると認識しております。「住みたいまち」「住み続けたいまち」として選ばれる久留米のまちの魅力づくり、すなわち、「日本一住みやすいまち」づくりを積極的に進めていかなければならないと考えているところでございます。そして、その様なまちづくりには、市民の皆さま、そして各団体、事業者の皆さま等の参画・協働による取り組みが不可欠であると認識しております。

本日の創生会議にお集まりいただいておりますのは、産業界・行政機関・教育機関・金融機関・労働団体・メディア、市民団体、そして、企業経営者の方々など、久留米市の各界を代表する方々でございます。皆さま方のご理解とご協力をいただきながら、官民連携のもとで、人口減少に立ち向かってまいりたいと考えております。

この創生会議では、それぞれのお立場から、久留米市の将来に向けて忌憚のないご意見、ご提案を賜りますようお願い申し上げまして、開会にあたってのご挨拶とさせていただきます。

■事務局（國武総合政策部長）

ありがとうございました。

続きまして、本日ご参加の委員の皆さまを事務局からご紹介させていただきます。

(事務局より委員、事務局、部会責任者等を紹介)

ありがとうございました。続きまして、この創生会議の進め方について、引き続き事務局よりご説明いたします。

■事務局（甲斐田総合政策課長）

※「久留米市まち・ひと・しごと創生会議開催要綱」により、創生会議の進め方について説明。

■事務局（國武総合政策部長）

それではこの後は、副座長の橋本副市長に進行をお願いいたします。

■橋本副座長

副座長を勤めさせていただきます副市長の橋本でございます。座長から指名がございましたので進行役をつとめさせていただきます。どうぞ、忌憚りの無い意見をお願いしたいと思います。

それでは次第に基づいて進めてまいります。まず、次第の2、事務局説明をお願いいたします。

3. 事務局説明

■事務局（甲斐田総合政策課長）

※資料により、人口ビジョン、国・久留米市のこれまでの検討状況等について説明。

■橋本副座長

ありがとうございました。第一回目の創生会議という事で、事前の説明が少し長くなりましたが、ただ今の説明で何かご質問等はございますでしょうか。後ほどにも時間をとらせていただきますので、ご質問等いただければと思います。

それでは、先に進めさせていただきます。次第の3に入ります。

本日のメインテーマになりますけれども、ご出席いただきました委員の皆さまから、ご意見をいただければと思います。

これは、創生会議のご案内でお願いしておりましたが、久留米市まち・ひと・しごと総合戦略（暫定版）についてのご意見、あるいは、より効果的な取り組み、各団体との連携可能な事業、その様なことについて何でも結構ですので、お一人3分程度でご意見を承りたいと思っております。

それでは、どなたかご発言をお願いしたいと思います。無いようでしたら、順に回させていただきます。何卒よろしくをお願いいたします。

それでは、商工会議所本村会頭、お願いいたします。

○本村康人委員

まち・ひと・しごと創生総合戦略ということでございますが、地方創生の検討を進める上で一番重要なことであり、また、主たる要因となりますのは、「高齢化・少子化」にあると思います。従いまして、地方が取り組む内容というのは、地方ごとに違ってくるのだと思っています。

そうした中、久留米市というのは非常にロケーションが良く、魅力的な地域でありまして、他の地方とは少し違った「優位性」を持っているのではないかと考えております。そういうことを踏まえて、今からいろいろな話し合いがあるかと思いますが、久留米市の実情を踏まえ、久留米の強みを活かした施策、結論を出していかなければならないと考えております。以上です。

■橋本副座長

ありがとうございました。それでは緒方組合長、お願いいたします。

○緒方義範委員

2月に策定されました暫定版の5ページにあがっております、「職業として選択できる魅力ある農業の実現」。この中で、担い手の育成から農産物の販売力強化まで盛り込んでいただき、地元JAとして大いに賛同しているところでございます。

市長といつも話をさせていただくのは、久留米農産物の販売力強化の具体策についてです。農業団体等が行う輸出への取り組みに対する支援、6次産業化による商品開発等への支援、農商工連携、見本市の開催などがございますけれども、できれば、少し具体化し、実現性のある確定版にさせていただければと思っております。

先般から市長とトップセールス等を行って、非常に好感を得ている状況もあります。今後もその様なトップセールス等も行っていきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

■橋本副座長

ありがとうございました。それでは、佐藤頭取お願いいたします。

○佐藤清一郎委員

暫定版を見させていただきまして、私どもとしましても大変関心があることなので、いろいろな事を申し上げたいと思っております。よろしくお願いいたします。

暫定版については、包括的に良く出来ているのではないかと考えておりますが、印象としては、少し、人口のことにこだわりすぎているように思います。日本創成会議が5月に消滅可能性都市として発表し、日本全国が大混乱に陥ったわけですから、人口問題

が一番基本にあることは間違いないことです。しかし、ここでも一部触れられています。日本よりも10年、20年、30年前に、ヨーロッパが同じように人口減少を経験しながら経済発展してきたことに学ばなければならないと思うわけです。

例えば、ご承知のとおり観光は先進国の産業です。リピーターに来てもらうためには、安全安心で快適でないといけないというわけでございます。例えば、オーストリアのザルツブルグは人口15万に対して、年間150万人の観光客が来るということを見ても、居住している人口を増やすとともに、交流人口をどのように増やしていくのかということが大切であろうと考えております。日本中いたるところで、魅力をアピールし合っているわけですが、先ほど本村会頭が言われたとおり、この筑後地方というのは、非常に魅力あるところであると思っております。

高良山もあれば水天宮もあり、また筑後川が流れている。豊かな農業地帯でもあるわけですから、大変魅力があるわけですがけれども、今までは、それほどアピールしてこなかったのではないかと思います。従いまして、そういうことに本気でどう取り組んでいくのか、いわゆる「交流人口」をいかに拡大していくのが大切であるということでございます。

それから、周辺の市町村も地方創生について必死で考えられておられます。たまたま先週、鳥栖市長とお会いしましたけれども、鳥栖市は小郡市と一緒に、共同提案をしようとしています。全国的に見ても、高速道路が四方向に伸びている鳥栖ジャンクションと鳥栖インターチェンジがそばにあるというのは珍しく、鳥栖だけらしいのです。ご存知のとおり、鳥栖は全国で住みたいまちランキングの上位で、この前は1位で直近は2位になっていたと思います。しかし、実際に人口は増えておりますけれども、鳥栖市内には土地がなくなってきているから、小郡市の土地を、規制を少し緩めて使わせていただけないだろうかという内容で共同提案されるということでございます。

そういう観点からいきますと、「がんの先進医療地域」という打ち出し方が1つあると思います。鳥栖市に九州国際重粒子線がん治療センターがございますし、久留米市には久留米大学がんワクチンセンターがあり、また、市内のインキュベーション施設には核酸医療の企業も出てきております。そういった意味では、全国的に見ても「がんの先進医療地域」ということであると思います。このことを、県境を跨いだ自治体が共同提案するというのは全国的に見ても非常に珍しく面白いものになるのではなかろうかと思っております。

ご承知のようにものづくりは、アジアに生産設備をシフトチェンジしているわけであり、ます。ですから、今から日本で流行るのは、やはり生活を豊かにするもの、端的な言葉で言えば、「楽しい、美味しい、お洒落」。こういうものが流行ってくるのだと思います。1つの典型は、「JR九州のななつ星」だと思います。要するに他所では得られないものとなると行列が出来るわけです。だから、そういうコンセプトで、生活を豊かにするような「起業」をどう支援するかということが、今後、大切になってくるのではなかろうかと考えております。

■橋本副座長

ありがとうございました。続いて、田代執行役員お願いいたします。

○田代信行代理

まず、F F Gグループには、F F Gビジネスコンサルティングというのがございます、まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定に向けて、久留米市から、「人口の変化が地域の将来に与える影響の分析業務」を受託させていただいております。その辺をしっかりと踏まえて、良いものにしていきたいと思っております。そのことをまずは申し上げたいと思います。

それから、すでに、様々な自治体において創生総合戦略が発表されておまして、私も銀行はいろいろな戦略を見るのですが、やはりその地域にあったものでないと思いません。総花的になっているものが多くございまして、やはりその地域に即したものの、選択と集中ではないですけども、どこにフォーカスするのかがとても大切ではないかと思っております。

それから人口の話がいろいろと出ておりますけれども、日本全国で人口が減るとするのは確実でございまして、いわゆる「まち・ひと・しごと創生総合戦略」というのは、「ひと」の取り合いと言いますか、自治体間競争と言えないのではないかと思います。

私は、約2年間仕事で久留米に住んでおまして、久留米は本当に住みやすいまちだと思いますけれども、人をどうやって増やすのかという中で「新たに住んでもらう人を増やす」という視点がとても大切ではないかと思えます。

仕事という観点で産業界を見てみますと、いわゆる労働集約型の産業というのはほとんどなくて、例えばブリヂストンの久留米工場、あの大きな工場も、詳細な状況を把握していませんが、少人数で運営されているのではないかと思います。あの大きな工場でもそれくらいの雇用しか生まないという中で、いわゆる労働集約型の産業というのはサービス業などの分野しか期待できないと思えます。サービス業に従事する人を増やすためには、その地域に住んでいる人を増やすしかないと直感的に思っておりますが、久留米のまちを見たら、医療、教育という素晴らしい資源があり、また、おいしい食べ物もたくさんあるなど、人を惹きつけるいろいろな地域資源が揃っております。

その様な中で、2013年、2014年では人口がプラスになっているというのは、これはマンションが出来て、人が周りから入って来たということであると思えます。子育て世代が住居としてえらぶ第一の条件としては、やはり「教育」をあげられます。

久留米には久留米大学附設高校があり、久留米附設に行けなくても明善高校があると言われる。そんなに簡単に行けるわけではないのですが、やはり人から見てそういう目立つ教育機関があるというのは素晴らしいことではないかなと思えます。また、久留米にはJRと西鉄という二つの鉄道が通っており、天神まで30分、博多駅まで新幹線なら15分でいける非常に交通利便性のよいまちです。ですので、駅から徒歩圏でいける場所に快適なマンションなど住宅環境を整えて提供するなど、「他所から取って来て

でも増やす」ということを大きな柱のひとつにされてはいかかかなと思います。せっかく久留米が持っている競争力を活かせるチャンスだと思いますし、なおかつ、実際に駅前マンションが出来て人が増えているという実績もございますので、その様な政策を充実されると、色があるというか、少し違ったものになるのではないかと考えております。以上でございます。

■橋本副座長

ありがとうございました。続いて、農塚本部長をお願いします。

○農塚博俊委員

西日本シティ銀行の農塚でございます。この暫定版に対する感想でございますが、国の総合戦略を踏まえて5つの柱でございます、「雇用創出、ひとの流れ、子育て支援、暮らしの向上、広域連携」等、しっかりしたKPIを設定し作られていると考えております。

ただ、具体的施策として多くの事業をとりあげられておりますので、総合戦略の策定に関しては多くの事業にプライオリティをしっかりと付けて取り組みを考えていくことが重要ではないかと思っております。

その様な中で、こういった総合戦略を仕事上、いろいろなところで見ますけれども、残念ながら大差はそれほどない。福岡銀行の田代執行役員も言われましたけども、実際には企業誘致でも、人口の増減でも、自治体間の取り合いになってしまっています。政策に大きな差がなければあまり効果がなく、例えば企業誘致などについても差別化を図らなければ非常に難しいのではないかと考えております。

その中で、まずは若年層の流出を止めるというのが一番ではないかなと思います。そのためにも、もちろん企業誘致、そして農業の充実あたりを、われわれ金融機関と一緒に考えていってもらいたいと思っております。

けれども、やはり自らが産業を創出する、企業を起こすということも大事ではないかとも思います。久留米市でしかできないこと、もしくは久留米市の特性を活かした産業を自らが立ち上げることが重要。それが農業であれば6次産業化を含めて、さらにはそれを観光にも上手く活用するようなことをやっていただきたいと思っております。起業にあたっては金融機関としてもご支援できるのではないかと考えています。

そして2番目に来るのが、先程お話にも出ました結婚・妊娠・子育て支援と、教育施設の充実ということになってくるのではないかと考えています。そのあたりについても各銀行でそれぞれローンを作っておりますし、ここにいる3行で久留米独自のローンを作ってもかまいませんし、ファンドを立ち上げてもいいので、是非そのあたりもご提案したいと思っておりますし、業者の方においてもお話いただければ、積極的に対応していきたいと思っております。

また、海外ビジネス支援についても、海外支援のセミナーや勉強会等、一緒にやらせ

ていただければと思っています。

あと、販路の拡大についてもそれぞれの銀行にノウハウがありますので、うまく利用していただければと思います。そういうことで、金融機関として、出来る範囲のことを一生懸命やりたいと思いますので、よろしく願いいたします。

■橋本副座長

ありがとうございます。特に使いやすい魅力あるローンは大いに期待しております。それでは、内田委員、お願いいたします。

○内田幸子委員

ベストアメニティの内田と申します。事前にこちらの資料をいただいておりますので、こちらのビジョンとわが社の雇用状況等を比べてみることによって考えたことについて、お話をさせていただきたいと思います。

わが社は女性が多い会社でありますので、社内でも積極的な女性の雇用、そして、結婚してもずっと仕事が続けられる環境の強化ということに、ここ数年力をいれてまいりました。その結果、ここ数年で、平均2名から4名ぐらい産休をとっているスタッフがいるような状況です。ただ、逆にその様に結婚しても仕事を続けていくスタッフが増えたということが、新卒の雇用を少し抑えていかなければならないということにつながっている現状もあります。

もう一つ、わが社の定年は60歳で、再雇用が65歳までということになりました。60歳ぐらいで今後の意向を聞きますと、ほぼ9割強で、出来れば65歳まで勤めたいという方がほとんどですので、そうすると当然、新しい方の雇用も抑えていかなければならないというのが、中小企業の現状であると思います。どちらかを優先すると、どちらかが厳しい状況になるということを感じているところもあります。

男性女性問わずではありますが、私自身もずっと仕事を続けてきたというところがありますので、女性が仕事をして活躍するというのは大賛成で、できればスタッフにいろいろなチャンスを男性と同様に与えて、女性の力で会社を違った切り口でやっていきたいというようなことを積極的に進めております。わが社の代表もその方向性をすごく支援してくれておりますので、その様な点で、女性が活躍できる企業としてのモデルになっていければ良いのではないかと考えています。

■橋本副座長

ありがとうございます。それでは、佐藤委員、お願いいたします。

○佐藤有里子委員

キャリアリードの佐藤と申します。よろしく願いいたします。私が会社を立ち上げたときに手伝ってくれた女性の友達がいまして、ブライダル関係で仕事を頑張られて出

世して取締役までなりました。しかし、去年、その彼女が全てを捨てて竹富島というところに宿を買って、民宿経営をはじめました。彼女が全てを捨てて行った島はどんなところなのだろうと思い、お祝いもかねて行ってきました。

すると、とにかく観光がすごい。小さな島で本当に何にもないが、観光がすごい。島には星野リゾートが入っているというのがあるのですが、星野リゾートの方が宿泊率は低く、他の小さな民宿のほうが宿泊客で一杯になっている状況でありました。友達の宿も1年目にして計画の150%ぐらいの宿泊率になっています。隣の小さなソーキそば屋さんが、月に360万円売り上げると聞いて大変驚きました。

それは、台湾から石垣島まで大きな観光船が週に2回くるというのもありますし、竹富島が何もないという魅力を上手に発信することが出来ているということもあります。そこに住む人たちに話を聞くと県外の人ばかりで、その様な方がたくさんそこに定住していました。ほんとに小さな島だけど、これだけ人を寄せつける島というのは、なんて魅力的なのだろうという関心をもっていました。

その様な視点を踏まえて、この会議を聞かせてもらっておりましたら、やはり、「楽しい、美しい、やさしい」とか、そういうまちづくりが大切で、「ここならたくさん子どもを産みたい」とか、「ここで生きていきたい」とか、そういう感覚というのは、とても大事なのではないかと思います。

今、タイから金融関係の国の取締役の方が来ております。娘さんをこちらで就職させるのに一生懸命に動いているのですが、なぜ、東京じゃなくて福岡、そして久留米に来てくださるのですかとお聞きすると、大事な娘を就職させるのに、アメリカでは駄目だと、日本がいいのだとおっしゃられました。日本は、安心で、やさしくて、親切で、ここで、娘を活躍させたいと言われていました。そして、娘さんに、東京ではなくて、なぜ久留米がいいのかと聞くと、東京は、せわしくて大変忙しい。そうではなくて、バンコク出身の彼女にとっては、この九州という土地がとても魅力的で人が温かくて親切で、さらに、この久留米という土地はもっと魅力的で、農産物もたくさんあって、水もきれいで、温泉があつていいところなのだとおっしゃられていました。そういう海外の人の受け入れというのは、ビザの関係など大変難しい問題もあるとは思いますが、今から取り組むべき課題であると思っています。

そして、私ができることの中で、今、無料塾という活動をさせていただいているのですが、ひとつの教室では、家庭的に大変な環境にある子どもたちがそこで一生懸命学んでいます。その教室の子どもたちの可能性は、とてもすごいものがあり、楽しくて明るくて、ワクワクするような場所作りができています。その様に、子どもたちが学ぶ場所があつて、関わる大人たちも楽しいと、みんなで勉強しながら良い結果が出てくるのではないかと思います。

また、私ができることとして、来年、国際キャンプをこの地に持って来たいと思っています。海外の子どもたちが夏休みにキャンプでこの地で生活することによって、小さいときに久留米の記憶をつくる。久留米にいろいろなところがあつて、美味しい食べ物

がたくさんあって、川があって、山がある。そして地元の子もたちと交流することによって、その人たちが学生になって久留米に帰ってきたりすることがあるのではないかと考えています。私にも何か出来ることがあるのではないかと、会議を聞かせていただいております。

■橋本副座長

ありがとうございます。それでは、有馬理事、お願いします。

○有馬彰博代理

久留米大学の学長の代理できております、理事の有馬と申します。選出母体が高等教育コンソーシアム久留米の理事長という立場であり、また、コンソーシアムの運営委員をやっておりますので、そちらの立場と、本学の実情を交えた形でお話をさせていただければと思います。

人口減少問題の克服ということに関しましては、実は高等教育機関としてもまさに直面する問題であり、15歳の方と18歳の方が減少する、2018年問題というものがああります。進学率がアップすればいいのですが、これからどれだけ人口が減少していくかによっては、このままの進学率では各学校が定員を充足することが難しくなってきました。そのため、久留米市における5つの高等教育機関においては、今現在、四苦八苦しながらいろいろなことをやられていることだと思います。

必然的な人口減少について、例えば久留米大学が、出生率1.8をどうするのかという問題について、直接手を打つことは当然できないものですから、どうするのかということを見ると、魅力ある大学、学校づくりというのを進めるということになります。

久留米市とは密な連携を組ませていただき、学術研究都市づくり推進協議会を通して、5つの高等教育機関での単位互換協定を結んでおります。また、コンソーシアムの構想についても、まずはコンソーシアムを作ることによって、更なる学術の交流を深めるといった目的もあったのですが、中心市街地に学校が出てくることによって、そこが活性化するのは、ということで、コンソーシアムのサテライトをくるめりあ六ツ門の中に設置しています。

その中で、先ほどの、事務局からの説明の中でもあったように、「自立しなさい」というのが国の方針であると思います。この自立というのが、人口減で志願者が減っていくなかでは各学校としても難しい話でありまして、これまでは、なかなか思うような形では推進できませんでした。

しかし、今ではコンソーシアムとして市と連携することができています。30万都市で5つの高等教育機関があるという都市はそうそうないと思います。だから、「教育」をいかにまちづくりに活かしていくのかということについて、久留米市と連携を密にして進めていきたいと思っています。

実は、本日も久留米大学で全ての教職員を集めて話すのですが、2018年問題、久

留米市の人口ビジョンの暫定版の中にありますように、18年から人口が確実に減少していきます。2030年になったときには、現在120万人の18歳人口が100万人になり20万人減ることになります。18歳人口が20万人減るということは、今の50%の進学率の場合10万人の志願者減になります。その中で、我々の様な学校がどうやって生き残っていくのかということ、教職員に対して常々言っています。ダーウィンの進化論ではありませんが、東京、関西の大都市圏にある強い大学が生き残るのではなくて、環境に即した大学づくりをやっていくことによって、我々の教育機関が生き残るのであると思います。「生き残る」と言う表現はあまり好きではありませんが、環境に即した大学づくりというのは、やはり魅力ある大学づくりであり、その魅力ある大学というのは、久留米に来てもらえる大学ということであります。よって、久留米に来てもらう魅力あるまちづくりと一緒に教育機関としてやっていきたいと思っています。5つの高等教育機関の知的財産をうまく活かすことによって久留米の魅力をもっと出せるのだと思っています。

そこで、久留米をもう一度見直す、見つめ直す必要があると思います。同時に、例えば「インバウンド推進」もそうですが、久留米の良いところを再確認して、まちづくりを推進し、いろんな産業界との連携によって、もっともっと久留米という魅力が出せるのではないかと考えています。

個別なことについては、今日は差し控えさせていただきますが、久留米には5つの高等教育機関がありますし、それから産業界があるのが強みであります。ただ、高等教育機関として言いたいことは、若者が地元に残ってもらえるような企業が無いと若者の流出を止めることは難しいということです。だから、先週大学の講義でも話しましたが、久留米の良さを見つめ直してもらうためには、まずはそこに残ってもらうことが必要であり、残ってもらうために、そこに魅力的な産産をどう創出するのか、ということについては是非協議をしていただければと思います。我々としては協力をいっさい惜しみませんし、そのための教育機関でもありますので、知恵を出していきたいなと思っております。今後ともいろんな連携を深めさせていただければと考えております。以上でございます。

■橋本副座長

ありがとうございます。それでは、甲斐委員、お願いします。

○甲斐能枝委員

福岡労働局の甲斐でございます。私は女性の活躍促進ですとか、雇用についての仕事をさせていただいていますが、少子化の中で、比較的高学歴の女性が、結局働いていないことが非常にもったいないということで、女性が働き続けられるような雇用環境の整備に関する仕事を進めさせていただいているところです。

そのためには、女性が働きやすい魅力ある職場づくり、それが結果的に若者も働きや

すい職場になっていくだろうということで、若者の定着にもつながるでしょうし、あるいは遠くからこられる方には、U・Jターンという形で地元定着につながることもあると思います。労働局としまして、女性の活躍だけではなくて、若者の定着、あるいは高齢者の就業に関しまして取り組んでおりますので、その様なことでお手伝いできることがあればと思っているところです。

個人的な意見として、先ほどからもあったように、全ての取り組みを久留米で完結するというのも難しいことであると思っています。地の利という面では福岡都市圏に近いということもありますので、「住んでいい久留米市」というような観点もあっていいかなということも思っております。一方で雇用の場の創出はしつつも、久留米の戦略として、この様な特色があってもいいのかなと思ったところです。労働局として支援できるところは協力させていただきたいと思います。以上です。

■橋本副座長

ありがとうございます。それでは、鹿田委員、お願いします。

○鹿田哲委員

2点、述べさせていただきたいと思います。

1点は、私どもは労働組合ですので、やはり雇用の充実というのに関心をもっております。そういう意味で、若者の流出を止めるというのは、非常に重要なポイントではないかと思っております。

先日、ある高校の進路指導の先生と話をしたのですが、現在、少子化の影響で一人っ子が多いということで、親も子を地元就職させたい、子も親と近くに住みたいというような人が多くなっているそうでございます。しかしながら実際の雇用環境となりますと、久留米ではなかなか条件が合わずに、福岡市とか、あるいは県外に出て行くという状況になっているようでございます。

では、久留米にそうした、魅力ある企業がないのかということ、決してそうではないと思っています。ここにおられる委員のみなさんの会社をはじめ、素晴らしい企業がたくさんあると思います。ただ、残念ながらPR不足なのか、あるいは就職についての知識が欠乏しているのか、様々な問題の中で、残念ながらマッチングしていないというような実状もあるのではないかと思っております。

私どもとしては、若者の県外・市外流出に歯止めをかけるという視点からも、雇用を軸に、若者のまずは教育、就職指導、あるいは就職相談、また、そうした方々が家庭を持つようになってからの教育、雇用環境というようなことをご検討いただければいいのではないかと思っているというのが1点でございます。

2点目は、財源的な話になります。この会議を進めるにあたって、先日いただいた資料の中では、国や県との情報交換を経ながら、連携を取りながら進めていくということがございました。そのことを否定するのではございません。ただ、こうした創生会議や、

まちづくりの重要な視点は、やはり行政だけではなくて、地元精通した民間のみなさん、そして地元の住民のみなさん、こうした方々が、地域の実状にあった知恵を出し合いながら、どのようなまちを作るかというのが大きなポイントになってくると思います。

そうした意味では、補助金やひも付き財源というのが自由な発想を妨げて、窮屈になってしまうということが多々ございますので、自主的な弾力性のある財源の確保ということについても国への働きかけをやっていただけたらどうかと思いますので、意見させていただきました。以上でございます。

■橋本副座長

ありがとうございます。それでは、古賀委員、お願いします。

○古賀忠委員

まず、暫定版に対する意見や感想などについて3点ほど述べさせていただきます。

久留米の強み資源を活かそうとした意気込みを強く感じました。その点評価いたしておりますが、それが中心なのは当然としましても、この機会として、久留米の弱みを克服する、そういう見方があってもいいのかなと思います。

2つ目としては国の政策5原則の中で、自立性として、国の支援がなくとも事業が継続する、そういう状態を目指すというのをうたっています。これを考えますと、行政として事業を続ける以外に、会社組織を立ち上げるというやり方もあってもいいのかなと思います。そのためには、当然市場のマーケットに乗ることが必要であり、ばらまき型の補助金ではなく、採算の取れる事業に集中して支援をするとそういう発想につながってもいいのかなと思いました。

3点目としましては、たとえば移住とか観光客の誘致、ターゲットとして福岡市や福岡都市圏、これを強く意識した施策があってもいいのかなと、そういうふうに感じました。あとの充実すべき施策の内容につきましては、思いつきめいた話になりますけども、やはり久留米は医療のまちでございます。その中でも「がん」、さきほど佐藤頭取の話にもありましたけど、久留米大学、新古賀病院、鳥栖の重粒子線施設がある中で、「がん」という色を強く出して、わかりやすいイメージといいますか、医療のまちというよりも、「がん」というのをもっと前面に出してもいいのかなと思います。その結果、がんは日本人の死因の一番を占めておりますので、医療ツーリズムや、がんの早期発見だとか、関心の高いところで、久留米にツーリズムの形で人を呼ぶということにもつながるのではないかと考えております。

次の意見としては、たとえば創業支援、企業塾などいろいろとやっていただいているのですが、立ち上げの資金、これについては融資やローンがあるのではと思います。これに対して出資という形での創業支援ができないのかなと。その原資につきましては、例えば、ふるさと納税のような仕組みが活かせないのか、またはクラウドファンディングを使って市外に住む久留米出身の方に呼びかける、そういう資金確保の方法がないか

と思いました。

最後の意見としましては、この前、青峰団地を通過しておりましたところ、施設がだいぶ老朽化していました。そこに住む人は近くにスーパーもないし、買い物難民というのがだんだん現実味を帯びている地域が久留米市内にもあるのではないのかなというふうに思いました。

そこで、お年寄りも簡単に使えるような、スマホとか携帯電話を活用して、地元の商店とつないだ、買い物発注システム、これも間に企業が入ることが必要と思いますが、その様な取り組みが、いま住んでいる人にとっての暮らしやすいまちの形成につながり、それが域外へのアピールにつながればいいのかなと思いました。

最後に、非営利団体と連携した取り組みについての提案ではありますが、新聞社というのは、新聞を発行する以外にイベントや企画もやっております。たとえばUターン・ターンのイベントのPR、移住・定住フェア、さらには福岡に住む若者に、実際に久留米に働いてもらう就職体験ツアーという計画を立てたことがあります。以上です。

■橋本副座長

ありがとうございます。それでは、吉田委員、お願いします。

○吉田輝彰委員

私の立場から申し上げますと、久留米には46校区あり、46校区それぞれの地域代表者から、私が代表でここに参加させていただいております。いま皆さまがおっしゃったようなことを、地域でできることは地域でやろう、ということで、現在活動を行っているのですが、この創生総合戦略でも最後に出てくるのは事業であります。事業が出てきたときに我々46校区に対して、「あれをやろう、これをやろう」ということが出て来ます。だから中には市民の皆さまから「まちづくりの協議会は行政の下請けか」と言われることもあるわけです。

しかしそうではない。自分達で自立的にやっていくことがまちづくりである、ということで、意見交換をしながら月1回会議をしながら日々活動しています。

昨日、各校区の代表が集まったところで、「まち・ひと・しごと創生」の説明をしたところでありまして。私達まち連からの意見はまだまだこれからなのですが、せっかく時間をいただいているので、みなさんに一つご紹介したいものがあります。

石橋文化センターの美術館が今度久留米市に移管されて、石橋財団が引き上げることとなりました。以前、知り合いのブリヂストン役員と久留米を元気にするためにはどうしたらいいかという意見交換をしていたところ、美術館を維持して今後やっていくためには、このようなことをやってはどうか、という提案書ももらっていました。しかし、「時すでに遅し」で、財団へ移管することになりましたので、結局提案できませんでしたが、これが「まち・ひと・しごと創生」にもつながる内容だったので紹介します。

「ブリヂストン発祥の地、久留米を元気に」という題で、グローバル企業としての取

り組みという内容で提案されていました。代読なので真意が伝わらないかもしれませんが、かいつまんで説明します。

これを書かれた背景には、2012年の3月30日に内閣で決定された「観光立国推進基本計画」があり、海外から日本への観光客が増える見通しという話をもとに書かれています。

ブリヂストンをはじめゴム3社はかつて久留米において、地域医療と合わせて大きな雇用創出効果がありました。かつては久大本線、鹿児島本線の列車は東京の満員列車並みの混雑でありました。それがいつの間にか時代の流れで、企業努力があって、人員をかけなくても工場の運営ができるようになった。いわゆる人手による労働ではなく、ブリヂストンにしても、機械化、コンピューター化が進み、少人数で運営できる工場になったということです。

このブリヂストンは、世界25カ国に178の拠点があり、従業員数は全世界で約15万人いるとのこと。しかし、全世界の178拠点のうち、日本にはたった60の施設しかない。その中でもタイヤ部門は10施設しかない。世界的に見ると日本国内の施設は少ない。ブリヂストン社員のほとんどは海外の拠点で仕事をしているということになります。

この方の提案はここからありますが、ブリヂストンの海外社員を世界各国から日本に連れて来たらいいのではないかと、これを久留米への交流人口拡大の一つとして位置づけられないか、というものであります。海外のブリヂストン社員が、彦根工場、横浜工場、東京本社などの拠点をめぐり、特にブリヂストン発祥の地である久留米工場は「マザーファクトリー」として、必ず訪れて社員研修を開催する。これをぜひ久留米市と一緒にやってはどうかというものであります。

そして久留米の特産物などをPRしながら、この人たちにリピーターとして再度久留米を訪れてもらう。社員には家族が何人かいるだろうから、家族づれとなるとトータルで久留米市の人口の倍以上のリピーター候補者がいるということになります。

また、久留米市の良い所、良かった所を今一度見直すことをやったらどうかと思います。この「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に書かれていることは、今後のことしか書かれていないので良いことだらけが記載されていますが、久留米市の良かったところの振り返りや検証をやっていくことが大切であろうと思います。ブリヂストンだけではなく、アサヒコーポレーションやムーンスターも同様に歴史があるわけですが、ブリヂストンの社員がこうした提案を考えているということは、なおさら我々は「発祥の地久留米」を大切にやっていくべきではないかと思います。

こうした活動を通して、美しい国日本へのリピーター交流人口を増やすことが、地域の生き残りにつながるのではないかと思います。

■橋本副座長

ありがとうございます。それでは、吉岡委員、お願いします。

○吉岡マサヨ委員

生活者の視点で市民の声として、話をさせていただきたいと思います。まず、市民の方が安心して豊かな生活が出来る久留米であって欲しいと思います。それがあれば「久留米は良いまちですね」と言って転入してくる人も増えると思います。

また、学校が本当に多いと思います。しかし、現実には就学援助を利用されている家庭も多くなっています。その人たちが学校を卒業した後、きちんと高校に進学しているか、正社員としての就職が出来ているのか、困難な状況にある人たちに就労の場所がきちんと確保されるような取り組みを是非入れていただきたいと思います。

そして、今後、高齢者が増えていくのですが、高齢者を労働人口に変えていくような雇用の取り組みをしていただきながらも、一方で、年金でも豊かに過ごせるまちづくり、どんな立場になっても、どんな困難な状況になっても「住みやすい良い所だよ」と言われるような久留米市に変わっていけばいいと思います。簡単ではありますが、以上で終わります。

■橋本副座長

ありがとうございます。それでは、宮崎委員、お願いします。

○宮崎宏子委員

私は、久留米市中学校父母教師会連合会母親委員をやっており、また学校でPTAの役員も務めております。母親目線で言いますと、若い世代の結婚・子育てや安心な暮らしを守るというところにすごく興味がわきました。全体を通して見ても久留米が活性化するためには、やはり「子ども・教育」というところからなのだと思います。

高齢者のことについても、言いたいことがあります。やはりお年寄りや子ども、母子家庭の子どもたちに優しい社会と言うか、優しい生活が送れるように考えていただきたいと思っています。

子どもたちが入りたい高校や大学に入れるかと言えば、入れない子どもたちもいます。そのことを実感した出来事がありました。ある子どもに進学希望を聞くと、公立高校の名前は挙がるが、私立高校は受けないと言いました。久留米高校や南筑など、公立高校に受からなければ、就職しないといけないと親に言われたということを知ったときに、弱者に手を差し伸べる自治体であり社会であつたらいいなと思いました。それを聞いた時に、自分達にも何かできることがあるのではないかと思います、この会議に参加しました。

■橋本副座長

本日欠席されております、九州大学の坂井教授からコメントいただいております、皆さまに配布しますので、参考にいただければと思います。

まだまだ、皆さまからのご意見があるかと思いますが、時間にもなりましたので、特になければ、事務局より今後の進め方について説明をお願いいたします。

■事務局（甲斐田総合政策課長）

本日いただきましたご意見を踏まえまして、先ほどご説明させていただきましたとおり、二つの分科会にて、より具体的な意見交換を進めさせていただきました。検討を深めてまいりたいと思います。創生会議の皆さまには、一定の整理を進めた上で、改めてご意見をいただきたいと思っております。

そのため、次回の開催につきましては、分科会での意見交換が一定整理されました後に改めてご案内させて頂きたく存じます。また、効果的な事業等の提案につきまして、皆さまからございましたら、事務局の方まで書面なりでいただければ非常にありがたいと思っておりますのでよろしくをお願いいたします。以上でございます。

■橋本副座長

それでは、本日は第1回目の会議であり、長時間にわたりましたが、非常に貴重なご意見を頂きありがとうございました。

今後とも、よろしくお願いいたします。

以 上